グローバル人材育成プログラムに参加して

村　田　航　平
Kohei MURATA
機械システム工学科　3 年

1. はじめに

私は 8 月 16 日から 9 月 1 日にかけて，アメリカのカリフォルニア州にあるサンフランシスコで約 2 週間グローバル人材育成プログラムに参加した．参加した理由としては大きく二つある．1 つ目は，私自身海外に出たことがなく，海外にも興味があったからである．2 つ目は，先輩の話を聞いて興味を持ったのが理由である．この二つが理由で海外でインターンシップを行うことができるこのプログラムの興味を持ち今回参加することを決めた．

2. シリコンバレー企業見学ツアー

まず，到着したその日から 3 日間はシリコンバレーにある企業の見学を行った．Apple や Google などの世界的に有名な企業の見学を行い，AutoDesk やコンピュータ博物館で 3 D プリンタの技術やコンピュータの歴史について触れた．また，Fitbit 社や，Oracle 本社を訪れ，その会社の方から様々な話を聞くことができた．Fitbit 社で聞いた話の中でも，日本では失敗をすることは悪いこととされるが，アメリカでは失敗することはいいこととされていると聞いたことが最も印象的であった．あまり失敗をしていない人よりも多く失敗をしている人の方が知識が多いから同じ場面があった場合には，次は失敗しないと聞いてとても感心した．Oracle 社では，主に，アメリカでのワークスタイルについて知ることができた．その中でも，会社のデスクが，隣の人とコミュニケーションがしやすいように隣との壁が解放されているデスクがあったり，反対に一人で集中できるように壁の高さが高くなっているデスクがあったりと自分のワークスタイルに合わせて仕事に取り組むことができる環境があることに驚いた．また，会社には来てもいいとなっており，自分の好きな時間に会社に来ることがができることにも驚いた．「それではずっと出勤せずに家でサボることもできるのではないか？」と疑問に思ったが，ノルマがあるため，そのノルマを達成できなければクビになると聞いて納得した．

また，2 日目には，グローバルキャリアセミナーがあった．そこで，サイボウズの副社長である山田さんと ZenIT を創業したアミルさんのお話を聞くことができた．山田さんは，銀行員だったにも関わらず，当時は 10 人ほどしかいなかったサイボウズに入社したという経歴があり，その後サンフランシスコにわたり，活動をしている．「これからは，今まで非常識だったが常識になる」ともおっしゃられており，今までは書類もすべて紙などのアナログだったがこれからは全てデジタル化されることになるとおっしゃられていた．それを聞いて自分が今思っている常識ばっかりとらわれていることはいいことではないと思った．

また，アミルさんは日本の「禅」という文化と「IT」を組み合わせたものとして，ZenIT を創業した．この話を聞いて，「禅」と「IT」を組み合わせるという発想は少なくとも私自身は無いし，そんなかけ離れたものを組み合わせようと思わない．これからは，そんなかけ離れているものでも，組み合わせてより良いものにするという考え方は大切であると思った．

3. ホームステイ

私がホームステイしたのはメキシコ人の母とその娘さんがいる家庭に 2 週間滞在した．家に到着するまでは，英語が苦手なこともあり，どうやってコミュニケーションをとればいいのかとても不安だったが，ホストファミリーの人はとても親切で，毎日，朝食と夕食を準備してくれ，昼食は弁当まで準備してくれた．また，夕食を食べるときは積極的に話しかけてくださったり，週末は一緒に買い物に行った

り，朝早くに公園に行って公園で朝食を食べたりと，とても優しく接してもらった．また，その方は，以前にも日本人の方を受け入れられており，日本の文化や自然に興味があるらしく，その時に，英語は苦手であったが色々調べながら日本の観光スポットやいいところなどをホストファミリーの人に紹介した．

4. 企業研修

4.1 研修先

私の研修先は Air Accord という航空学校にある飛行機の整備工場で行った．Air Accord は FAA（米国連邦航空局）公認のフライトスクールで，訓練設備や保有機の整備状態などが FAA の査察を受けているため充実した訓練環境で資格を習得できる日本人経営のフライトスクールである．図 1 は実際に私が研修を行った整備工場である．

4.2 研修内容

私が行ったのは，主に，図 2 にあるような飛行機にあるパネルをドリルを使って開ける作業であった．開けた箇所を会社の方に確認してもらい，それが終了すればパネルを閉めるといったものである．

他には，タイヤのベアリングを外し，水で汚れを洗い流し，グリスをつけて，再びタイヤに戻して，タイヤを飛行雨期に着けなおす作業，エンジンのスパークプラグに付着している砂や塵を機械を使って除去する作業などを行っていた．英語が苦手な私に対しては，ジェスチャーや見本を見せてくれたりととても気を使っていただいた．私もどうにかして伝えようとジェスチャーを使って一生懸命伝えた．また，私がミスをした場合もよく謝っていたが，「なんで謝るの？　ナイストライだよ」と言われた．Fitbit 社で聞いた「失敗は悪いことではない」ということをここで実感した．

図 1　実際に働いた整備工場

図 2　飛行機のパネル

5. おわりに

私は最初，グローバル人材とは単純に英語が話せ，海外の人とコミュニケーションをとることができる人のことを指すと考えていた．しかし，このプログラムを終えて，英語を話す力というよりも相手に伝える力が重要だと思った．確かに英語は多少できないと駄目だとは思うが，自分の伝えたいことを言葉やジェスチャーで何とかして伝えるという力が大事だと思った．また，アミルさんの話から，アミルさんから見れば日本は海外であり，そこから「禅」というものを見つけて取り入れた．このことから，グローバル人材とは，海外の文化や技術に触れてそれのいいところを取り入れることができる人材のことを指すものだと感じた．グローバル人材というのはそれがすべてではないと思うが今回のプログラムでその中でも一番重要だと思ったことはそれだと思った．